

【議事】推4

(1) 準天頂高精度測位実験の事前評価について

JAXA 吉富室長が資料 4-1-1(準天頂・改訂版)を説明した後、少々質疑応答があった。その後、文科省の瀬下補佐が資料 4-1-2(事前評価結果)を説明した。青江部会長が評価結果の中で『疑問がある¹』と回答した委員がいることについて説明を加え、委員の発言を求めた。予定の時間も大分残っていたが、暫く発言がなかったので採決を取ろうとしたところで質問が始まった。説明者席には JAXA 堀川理事も列席していたが、吉富室長が回答に当たっていた。

森尾：p14 に電離層遅延補正の説明がある。米国で出しているものより正確な補正值が出せるのか。

JAXA 吉富：電子基準点のデータを基に独自の補正データを算出する。米国は全地球規模で補正值を出す、これは地域に見合ったデータを出す。

森尾：その外には無いのか。

JAXA 吉富：これが大きい。外に軌道推定の誤差もあるが小さい。

森尾：電波望遠鏡の場合には軌道推定の向上が有意義だと聞いた。

JAXA 吉富：ISS の HTV でも軌道推定の向上は有効である。

¹ 第一評価項目「目的」で『疑問がある』と評価し、それ以降の評価項目には評価をしていない。従って、全ての項目で『疑問がある』と評価しているとも理解できる。

(後半の説明)

青江：「プロジェクトの目的」の評価において、「疑問である」と評価された方がお一人いらした。「継続して打上げる計画なくして何の意味がある」とのご指摘であった。そのほかにご質問はないか。

(暫く場内を眺め回した)

青江：それではこの評価結果を定例会議に...

中西：外国との協力で東アジアとの記述であるが、米国との協力を意味があると思う。測位の技術が標準化されることが大切で、それには米国との協力が不可欠ではないか。

青江：米国との協議については説明を聞いたが、更に補足があれば JAXA からお願いしたい。

JAXA 吉富²：現在の GPS は L1 であるが、L2 とか L5 と云った更なる高精度化の計画も示されている。米国は 2013 年に L1C を計画しているが、その前の 2009 年頃に準天頂に乗せることになる。L1C 仕様書の共通化は合意した。

青江：ガリレオとの調整はどのようになっているのか。

JAXA 吉富：ガリレオは 1.5 G 帯を使っている。電波干渉の無いようにということで調整を進めている。共存性を確保

² 質問の趣旨と違う答になってしまったようである。部会長が言葉を挟んだせいであろう。GPS がスクランブルをかけたときにでも使えることや、そのような時にわが国に害を為す者には使えなくする方法など、戦略的な議論が望まれるところであるが、その気配は全く無かった。

する。

奈良：「地理・空間情報の基本法」と云う法案が今国家に上程されている。その 20 条、21 条に測位衛星のことが記述されている。外務省を中心に、総務、文科各省が参加し、アメリカと整合をとって取組むことが法律に書かれている。

森尾：お金はざっとどの位かかるのか。第 1 段階と第 2 段階に分けることで、費用がどのように変化するのか³が知りたい。

JAXA 吉富：民間と協力指定進めていたとき、総額 495 億と見積もっていた。そのうち 230 億が JAXA の開発分であった。これは 3 基+地上予備で見積もっている。今回の第 1 段階はミッション機器で 155 億、共通要素を含めると 330 億、JAXA 分は 280 億である。これは前回説明したときの第 2 分冊、15 ページに示してある。

宮崎：「実施体制」の 8 番の委員の意見に「利用実証は JAXA の責任範囲外という整理が今回の事前評価で多々示された」と記されているが、本当なのか。また、利用実験ではカーナビ以外にどんな利用実証が行われるのか。

青江：図の範囲で言うと（各省の役割を説明するが、図の中の色を使って説明した。傍聴席の資料はモノクロなので、

³ 大変大事な質問であるが、回答は的確ではなかったように感じた。メモが追いついていないのであるが、沢山の数値を紹介しているのに、第 2 段階まで含めた総額は紹介されていなかったと思った。

全く要領を得ない) 利用実証は国交省が担当するわけで、国交省から説明していただけないか。

JAXA 吉富：部会長のご説明は国交省の行う補強実験のことである。ここで云う「利用実験」は、「補強・補完情報を使う新しい方法はないのか」を探求するもので、元々は民間がケースステディーを進めてきたものである。今後進められることになるもので、今は細かいことは決めていない。また、今回の評価の対象にはしないことになったことを、「整理」と表現している。

宮崎：「利用推進」の予算はないのか。

奈良：ASBC（新衛星ビジネス会社）と云う企画会社が検討を進めてきたが、それが難しいということになった。その ASBC を財団法人にするなど検討しているところである。他省庁について、また他のモデルについては具体的なものは決まっていない。今は話し合いを進めているところである。

宮崎：農家で牛などの動物に受信機を付ける話も聞いた。利用できるものは幅広いので、そんな実験も進めないと。

奈良：今のお話とか、自動的に稲刈りするとか、無人の除雪列車を走らすとか、災害の救助隊員に持たせるとか、応用についての議論は多くある。ただ、どの省庁が何をというところまでは進んでいない。

（青江部会長の発声で、原案は承認された。）